



TITLE:

電算機システムの更新について

AUTHOR(S):

CITATION:

電算機システムの更新について. 静脩 1994, 31(1): 7-8

ISSUE DATE:

1994-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37261>

RIGHT:

来、利用者が集中しております。ご利用の際には、他の利用者のためにも効率よくご利用下さい。

全国共同利用図書資料（大型コレクション）の利用案内について

このたび下記大学図書館より、平成5年度全国共同利用資料（大型コレクション）について利用案内がありましたので、お知らせいたします。

なお、一部内容明細等のある資料につきましては、附属図書館参考コーナーでご参照下さい。

— 記 —

・東京芸術大学附属図書館

「音楽学学位論文集（Doctoral Dissertations in Musicology）」

・島根医科大学附属図書館

「解剖学教育ビデオ集成（ビデオテープ）」＊内容明細あり

・茨城大学附属図書館

「近代美術関係新聞記事資料集成（マイクロフィルム）（明治24～昭和16未収録期間あり）」

・九州芸術工科大学附属図書館

「色彩理論コレクション（A Collection on Color Theory）」＊内容明細あり

・鳴門教育大学附属図書館

「総合イギリス・アメリカ名著復刻叢書（Anglistica/Americana : a selection of works from the fields of literature, philosophy and religion, the social sciences, the pure sciences, language, the arts and technology）」＊内容明細あり

（参考調査掛）

報 告

電算機システムの更新について

1 概要

本学の図書館業務電算機システムは、附属図書館閲覧業務システムが昭和59年4月にオフコンで、目録業務・受入業務等についても昭和60年1月に附属図書館へ設置された中型汎用機によって開始されました。このうち、オフコンは現在も稼動中ですが、中型汎用機は平成2年1月に一度更新し、平成6年1月に二度目の更新を行いました。今回の更新では、使用しているソフトウェアについては大きな変更は加えず、主としてハードウェアを増強することによって、利用者サービスの拡大及びデータ量増大への対応を図ることとしました。ホストの主な増強内容としては、処理速度（MIPS値）が2.9から5.2へ、メモリが24MBから60MBへ、ディスク容量が15GBから25GBへ等となっています。さらに、ゲートウェイを設置してUNIXワークステーションからのアクセスを可能とし、端末システムについても台数の増加が行われました。

2 利用者への新規サービス

2.1 OPAC/TSSの充実

従来のコマンド形式による検索方法の他、4月から画面誘導形式による検索が可能となりました。コ

マンド形式と比較すると、検索手段が限定されるため、高度な情報検索に適しているとはいえませんが、マニュアルが無くとも検索することができるのが特徴です。コマンド形式と画面誘導形式は、必要に応じて使い分けることができます。

また、これまで利用できなかったUNIXワークステーションからも、6月からアクセスできるようになりました。これによって、学外からもインターネット経由で利用できるようになりました。ただし、ゲートウェイまでは共通IDで接続できますが、OPAC/TSSを利用するためには利用申請が必要です。利用申請については、附属図書館参考調査掛へ問い合わせてください。

2.2 情報コンセントの設置

附属図書館開架閲覧室の1階に10口、2階に4口、KUINSに接続するための情報コンセントを設置しました。

2.3 検索用携帯端末の貸出

附属図書館参考調査掛のカウンターにおいて、ノートブック型の検索用携帯端末の貸出サービスを4月から開始しました。この端末を、2.2の情報コンセントに接続すると、OPAC/TSSを利用することができます。

3 今後の課題

当面の課題としては、まず、稼働後すでに10年を

経過している閲覧業務システムの更新があります。さらには、OPAC について、土曜開館時における検索の実現を含む利用時間の拡大、インターネットのサーバ上での公開、同時アクセス台数増加時への対処があげられます。

また、将来的課題としては、マルチメディアに対応した、電子図書館システムの実現があります。これについては、今年秋の展示会で予定されているデモンストレーションに向けての取り組みが開始されていますが、このデモシステムと現在の業務システムとの連携が今後の課題になると思われます。

しかしながら、図書館業務システムの基本となるのは、あくまで入力されているデータであって、ハードとソフトは、それを提供するための道具にすぎません。京都大学の所蔵する、膨大で貴重な資料の情報を利用者に提供することが最大の目的であって、それをサポートするのがシステムの課題であることは、いうまでもありません。

附属図書館利用オリエンテーションの開催

附属図書館では、新入生を主な対象とした、図書館利用のためのオリエンテーションを、今年も下記のとおり実施しました。

開催日時と構成

(第一部)

日時：4月19日(火)～21日(木)の3日間

各日11:00-11:40と15:00-15:40の2回

場所：附属図書館3階 AVホール

開催内容：附属図書館の利用について

図書館利用案内ビデオ(約17分)放映

利用方法の説明

1. 貸出・返却・予約・更新等

2. 図書の探索方法

(カード目録とOPACの関係)

3. 二次資料・CD-ROM等の紹介

4. 相互利用とコピーサービス

5. ビデオ・語学テープの利用法

アンケート調査の実施と回収

(第二部)

日時：4月25日(月)～27日(水)の3日間

各日15:00-15:30

場所：附属図書館1階 カウンター前

開催内容：OPAC/ILIS検索について

説明と実演

結果：第一部には3日間で約330名、第二部は同じく約200名の参加がありました。

以下、第一部のアンケート中のコメント欄をもとに、参加者の反応を紹介します。

1) 内容・日程等に関すること

説明については、多くの回答者が「よくわかった」と答えています。

また、主たる対象者は新一回生であったにもかかわらず「4年間利用して知らないことも」あったとの表明もありました。こうしたことから、開催したことは意味があったと判断できます。

なお、実施時間や時期については、授業の登録日程や時間割との重なりを気にした参加者が目立ちました。もっと早める/遅らせてほしいとの意見や、一週間程度の連続開催、項目別に日を分けての開催、あるいはOPAC検索説明も含め一度に集約した開催の希望、ビデオに加え実地見学の要求等の意見が寄せられました。

2) 図書館資料に関すること

こちら、CDや漫画、「もっと通俗的な本」を置いてほしい、あるいは中国書を増やしてほしい等、利用者の非常に多彩な希望が表明されました。

3) OPAC・目録に関するもの

カード目録の分かりにくさも表明されていますが、多くはOPACについてのもので、検索の応答が遅い、変換が悪い、収録対象が少ない等の不満の表明がいくつか見受けられました。

4) 図書館の設備・サービスについて、その他

空調や自転車置き場の改善から、より長時間の開館の希望や、館内端末からの外部接続の実現希望等、図書館の在り方について非常に多様な希望が寄せられてきています。

このように、オリエンテーション日程中の内容についてはもちろん、2)～4)のような図書館の毎日のサービスに関することについても多くの要望が寄せられました。こうした要望や注文は、図書館に対する期待の表明であると考えられますので、利用者の皆さんにとってさらに便利な図書館となるよう検討していきます。

第二部は、初めてオンライン目録検索をする人のための説明会として、カウンター前の検索端末8台を使って実施しました。

期間中はOPACの説明担当者、検索補助者、操作説明用パネルの操作者の計10名で実施にあたり、進行はOPACの概要説明、和書、洋書、和雑誌、